



〒 111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2 階  
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

## 2013 - 2014 年度テーマ

R.I. テーマ 「ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を」  
R.I. 会長 ロン D・バートン  
地区ガバナー 吉 田 建 二  
クラブテーマ 「参加し行動しよう」  
クラブ会長 藤 掛 靖 元

## 本日の卓話

葛飾東ロータリークラブとの合同例会

## 今後の卓話予定

3/19 「時代と共に歩むロータリーの友」  
ロータリーの友編集長 東京築地ロータリークラブ会員 二神典子 様  
3/26 イニシエーションスピーチ 河村英朗君  
「健康の話」 田村順二君



2014 年 3 月 12 日

第 1352 回例会

会長 藤 掛 靖 元  
幹事 伊 石 佳 高



年間100%出席

後上 清君 1回

## 前回 (3/5 1351 回例会) の記録

### 来 訪 者 紹 介

◆ゲスト 0名  
◆ビジター 0名

### 出 席 報 告

総会員数	休 会	出席免除	出 席	欠 席	出席率	修 正 出 席 率
47 名	3 名	4 名	36 名	7 名	83.72%	1349 回例会修正 欠席 6 名・出席率 85.00%

東日本大震災で被災された皆様に一日も早い平和と復興がおとずれますようにお祈り申し上げます。このような時こそ、我々ロータリアンは『五大奉仕』を実行・実践しましょう。明日の日本と世界はみんなの手の中に！

## 会長報告 <原田会長代行>

・ロータリークラブの会員の中にも、親睦と親睦活動を混同する人が多いと言われます。Fellowshipが「親睦」と訳されましたが、本来「友愛」とか「友情」と言うニュアンスを含む言葉で、「親睦」とはロータリークラブがクラブとしてとして存続していく上で欠かすことの出来ない必要条件と言われます。いざと言う時に、悩み事を相談できる真の友人こそロータリーの友でなければならないと言

われますが、それを可能にするためにこそ、ロータリーの友情即ち親睦をさらに深める必要があります。そして、限られた例会時間の中だけでは交換出来ない更なる意思の交流を深めるためにこそ種々の「親睦活動」が有ります。国際ロータリー(RI)の推奨クラブ規則には、"Fellowship Committee"「親睦委員会」とは別に"Entertainment Committee"「余興委員会」が設けられており、親睦と親睦活動の違いが定義付けられています。

## 幹事報告<伊石幹事>

- ・本日例会終了後、第9回理事・役員会を行います。理事・役員の皆様は例会終了後、クラブ事務所へお集まり願います。
- ・次週3月12日の例会は葛飾東RCとの合同例会となります。よろしくお願い致します。

## ニコニコボックス

### <原田、伊石>

- ・宮崎さん、内田さん。本日のインシエーションスピーチよろしくお願い致します。

### <藤掛>

- ・本日の例会、欠席して申し訳ありません。宮崎さん、内田さん、インシエーションスピーチよろしくお願い致します。

### <天笠、藤田、永井、宮村、渡辺、植木、山尾、海内、上原、尾泉、潮田>

- ・本日の卓話 インシエーションスピーチ 宮崎守弘君、内田力君、よろしくお願い致します。

### <大塚、長沼>

- ・お誕生日のお祝いを戴き、ありがとうございました。

### <後上>

- ・結婚記念日に花束を戴きまして、誠にありがとうございました。

### <内田>

- ・新人歓迎会ありがとうございました。今後

ともよろしくお願い申し上げます。

### <宮崎>

- ・インフルエンザのため欠席しましたが、ありがとうございました。

### <親睦委員会一同>

- ・新入会員の歓迎会の残金をニコニコ致します。

### <古谷>

- ・居宅介護サービスshop 5店目となる千葉西店がopenしました。

### <笹生>

- ・過日、NHKにて大阪の淀川の公園で1メートル超級の鯉が釣れ、大賑わいの様子が放映され、話題になりましたが、実は首都東京でも、鯉釣りは盛んです。

そこで一曲・歌うニコニコ

♪ 千代田、水の登 入船、きよし

鯉(恋)の夜釣りは 隅田川(向島)

作詞・歌唱 笹生淡水

## 2013年~2014年度 第9回理事・役員会報告

### <審議事項>

1. 1、2月度会計報告

### <報告事項>

1. 炉辺について(発表4月9日)

2. 東京浅草ロータリークラブ50周年(4月14日)について

3. 各委員会より

4. その他

## 次年度 第2回 被選理事・役員会報告

1. 2014~15年度 国際ロータリーテーマ「ロータリーに輝きを」(Light Up Rotary)

2. クラブテーマ「全員参加で楽しく」

## 「イニシエーションスピーチ」



宮 崎 守 弘 君

私 宮崎守弘は1953年（昭和28年）12月8日生まれ。昨年還暦を迎えました。そして、今年にはミヤザキ食器（昭和29年4月8日に会社設立）が60周年を迎えます。

商売のルーツとしては、私の祖父が明治時代に愛知県稲沢市から、丁稚奉公で同じ稲沢出身者が営む東京の傘屋さんへ奉公したのが始まりと聞いております。その後当時ガラス業界では最大大手であったまた同じく尾張出身者の経営する旧「水谷硝子店」に転職してからが今日の「ミヤザキ食器」の原点になります。数十年後、硝子製品関係を生業とする商店を浅草馬道にて独立開業し、大正、戦前の昭和を当時の日本国民が経験した戦争震災等々中でかなり苦労しながら初代の祖父が頑張ってきたと聞いております。

太平洋戦争では3人兄弟の長男（父の兄）がレイテ島で戦死、次男である私の父は将校として満州赴任、そして終戦は千葉県房総半島にて迎えたそうです。

その後、現金商いができる東京の合羽橋に宮崎常司商店を立ち上げ、昭和25年母と結婚し2児を儲け（姉、私）昭和29年に有限会社宮崎常司商店を設立したそうです。合羽橋では、私が入社する以前は小売店として約40年間は陶磁器等食器の販売と鍋釜等の道具類を喫茶店スナック、バーなどに販売しておりました。

私は昭和52年に大学を卒業し、当時浅草橋にありました佐々木硝子株式会社様（硯東洋佐々木硝子）へ家業継承の準備という名目で縁故関係枠を頂き、約5年間務めさせていただき、退社後すぐに宮崎常司商店に入社いたしました。

当時弊社は従業員1名というような会社で、何を取り合えずすれば良いのかわからず、いろいろ悩んでいたことを今は懐かしく思い出します。その後は、ただ変化を求め、会社の将来など考えず がむしゃらに前だけを見て進むそんな毎日でした。

そんな時、みかねた先輩や、友人の方々にいろいろご指導や激励をいただき、何とか目標も定まり……？ 合羽橋の待ち商売の概念を捨て、小売業から卸商社への道に変更。貿易（輸入、輸出）の勉強などをし、国内外のメーカーさんとの新規取引開始など、商品、流通、企画のオリジナル性を高めていく努力を積み重ね今日に至りました。今考えてみればやはり若いエネルギーの凄さを感じます！

現在は、本社を上野駅前に移し完全に小売形態をなくし、日本全国に限らず海外にも販売代理店の拡張を目指し、未だイバラの道ではありますが社員共々社業に励んでおります。

現在販売代理店、特約店等、日本国内約 70 社、海外 15 社。これとは別に他メーカーとの競合が多い大手ホテルチェーン、結婚式場（国内外問わず）、大手外食産業については直取引にて現在是对応しております。

扱い製品はすべて業務用使用の和洋陶磁器、ガラス食器、漆器、金属食器等で、仕入れ先は日本全国の産地メーカー（有田、美濃、燕他）海外（中国、タイ、台湾、韓国、カナダ、アメリカ、イタリア、ドイツ、ポルトガル、フランス、トルコ他）となっております。企画商品（OEM）海外メーカーとのエクスクルーシブ契約商品とオリジナルにこだわった商品構成が主力です。ご興味がある方がいらっしゃいましたら、是非弊社のホームページをご覧ください。www.mtsco.co.jp

今回素晴らしいご縁を頂き、浅草中央ロータリークラブに入会させていただき本当に感謝しております。常々 60 歳を機に何か少しでも世の中のお役に立ちたいと考えて居りました。そんな時、浜中様、渡辺様、後上様よりお誘いいただき、この機会に思い切って浅草中央ロータリー様のお仲間に入れていただこうと決心いたしました次第です。まだまだロータリアンとしては未熟ではありますが、昨年 11 月にこの会に入って、よく皆さんがおっしゃる「お互いロータリーを楽しみましょう」の心境に早く成れるよう今後もいろいろと勉強していきたいと思えます。

このイニシエーションスピーチを良い機会としてロータリアンとして、また人として成長していけたらと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

## 「イニシエーションスピーチ」



内 田 力 君

アダムとイブの末裔の内田と申します。

大方の方が何万年も遡れば皆さん同じ先祖になると思えますので、このようなご挨拶を致しましたが、内田家の近いアダムとイブは、埼玉県より明治の時代に東京市に出てまいりました曾祖父母であります。

アダムの正式名称は内田太郎吉と申します。嘉永 4 年生まれちょうどジョン万次郎さんがアメリカ船に乗って琉球に上陸いたしました年になります。イブはと申しますと内田かんと申します。安政 6 年生まれで、ちょうど安政の大獄の頃になります。そのころの情勢等につきましては歴史書などをご参考にしていただければ幸いです。



さて、曾祖父母の時代には、下谷区下車坂町 14 番地 = 今の台東区上野 7 丁目 1 4 番地 (JR の線路に沿った道で、上野両大師から下りてきましたところ) に生花問屋を営んでおりました。この曾祖父が千葉の鋸南町 (きよなんまち : 館山のあたり) に水仙の栽培を教えて、土地の名産となりました。大正 5 年 8 月に、その功績を称えられ館山の鋸山 (のこぎりやま) の日本寺 (にほんじ) に水仙を持った羅漢像が鋸南町の花弁栽培 (かきさいばい) に携わる人々を始めとする有志の方たちによって建立されました。この曾祖父母から流れ出ました本流は、二人が 51 歳、43 歳の時に生まれた初めての男の子 (松之助) に家督が引き継がれ、後の発展へと続きます。

さて私が属しております支流はと申しますと、大叔父である松之助の 11 歳年上であります次女のふみ (私の祖母) が、入り婿の徳之助を大正 2 年に迎えて生花問屋を営みまして、大正 10 年に大叔父が文京区の本郷に店を出してもらい独り立ちするまで、本流を支えていたこととなります。この後ふみ、徳之助の二男であります私の父 (静馬) が、生花と広告業を合わせたような商売を始めますが、体調を崩し 59 歳で他界した後は、母が二男である私が結婚するまで細々と続けておりました。

やっと本題であります私の話になりますが、下車坂で生を受け、今は廃校となっております区役所の隣の下谷小学校、そして忍岡中学校、都立上野高校、専修大学を卒業いたしました。中学、高校時代にはバレーボール部を一生懸命やっておりました。中学校時代には、台東区の新人戦で優勝し、高校では都大会でベスト 24 が最高の戦績でした。大学時代は、高校のバレー部の OB として、現役高校生のコーチをサブコーチを含めて 2 年間勤めました。大学にはあまり行っていなかったために 3 年生の時に学生課に呼び出されまして、このままでは卒業できないからと脅され、4 年時には講義に出る前に必ず学生課に顔を出して、学生課でも出席を取るようになってしまいました。そのせいもあってか 4 年生のときには新鮮な気持ちで、まるで入学したてのまじめな学生の気分で、授業に感動しておりました。

この雰囲気就職活動もスムーズに行え、東京ディズニーランドがオープンする 1 年前のオリエンタルランド株式会社に新卒として入社いたしました。配属されましたのが、1 番忙しい人事部の採用関係の部署でした。なぜ忙しいかと申しますと私が入社した当初 200 名規模の会社でしたが、それをオープンまでに 2000 名にして、その他に準社員というアルバイトやパートの人を 5000 名 (最終的には 8000 名になっておりましたが) 採用して教育しなければ、オープンすることができないという大命題が課されておりました。その頃は、法定労働時間が週 48 時間の時代でしたが、最高に残業した月は 1 ヶ月 186 時間でその時の 1 ヶ月の平均所定労働時間数が 183 時間でしたから、1 ヶ月に 2 カ月分を働いていたこととなります。

そのかいもあって、無事に 1983 年 4 月にオープンすることができました。オリエンタルランドでは、6 年間在職して、5 年半人事に在籍し、先ほどの採用から人事制度などの業務に携わり、最後の半年はワールドバザールにあります、「ディズニー & カンパニー」という商品販売のショップで店舗運営を担当いたしました。このときの思い出は、マイケル・ジャクソン

ンが夕方からディズニーランドを貸し切り、一人で（お付きの人が数名のみ）来園したときのことです。真っ赤な革のジャケットを颯爽とはおり、踊っているような足取りでワールドバザールのショップの前を通り過ぎていく姿に、思わず「マイクル〜っ！！」と女性陣と一緒に叫んでしまったことです。この日の我々のショップはマイケルが帰るまで開店していることになっており、マイケル番はすべて女性陣に奪われてしまい、来園時のときのみの滞在許可しか降りませんでした。マイケルの姿に「いつかの日か自分もここを貸し切って、遊ぶ側に回ってみたい！」とつかの間思いました。

昭和 63 年の 3 月にオリエンタルランドを卒業し、個人事業の会計指導や労働保険、税務申告等の援助をする浅草青色申告会の事務局に入職致しました。本来は本屋を始めたいと考えておりましたが、本屋のノウハウなど無く全く未知な部分が多かったので、自分が独立した場合に税金の申告ができるようになる、会員に本屋さんがいればノウハウを教えてもらうことができるなどと、甘い考えで飛び込みましたが、多くの方のご商売の内容をつぶさに見ることができ大変勉強になりました。またここで労働保険や社会保険の担当になったことで、現在の業務のもとになっております。

入職する際に 3 年くらいで独立したいと申し出ていたのですが、8 年間在職しました。その後平成 8 年に損害保険代理店として独立開業し、9 月に生命保険も扱うようになり有限会社を設立いたしました。民間の保険を扱うようになり、公の保険の勉強と出来れば取り扱いもできる社会保険労務士になろうと決意し、その試験に平成 9 年にチャレンジしましたが果たせず、翌年に無事合格し現在にいたっております。

社会保険労務士としては、全くの素人でしたからここでも必死な日々が続いております。そのご恩返しと思い平成 11 年度から台東部の幹事、平成 15 年から東京会の代議員、平成 19 年から東京会の理事、平成 23 年から台東支部長兼理事を務めさせていただいております。社会保険労務士法は昨年で法制定 45 周年の節目を迎えました。弁護士法や税理士法などと比べて後発で歴史は短いですが、国民の皆様様の「ゆりかごから墓場まで」を扱う社会保障に関する制度に精通した唯一の士業であり、また従業員と経営者の間を取り持つ士業でもあります。労働関係、社会保障関係の法律は日々変化しております。非常に景気に左右されやすい制度や法律が多くあります。また、世代間の調整や調和を取ってゆかなければならないことも多く存在します。東京都社会保険労務士会の法制定 45 周年にちなんだキャッチフレーズは、「一人で悩まないで。社労士に相談を」です。皆様の良き相談相手としてお役にたてれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

三寒四温と申しますが、未だ寒さが続いております。

各地から梅便りが届く時候となりました。そこで小唄の一節をご披露します。

“ 鶯の宿ととのえり梅の花 咲いて待つではないかいな お客蝶々で花めぐり “

伊藤 寿観 詞